夕刊
磐城新聞
五月十六日發行
定價 一ケ月 金六拾五錢（郵稅拾五錢）
廣告料金 普通欄一行金六拾錢 雜報欄一行金九拾錢（五號十二字詰一行）（場所指定一行壹圓）
編輯印刷兼發行人 柏木 福島縣石城郡平町十六番地
發行所 磐城新聞 合名會社
電話五六四番
（日曜祭日翌日休刊）

つばめ

鯉淵武司

さういふには初めての家へ新らしく巢を造るときより尚一層要心をするやうです。また今年來ないで來年になつてから來ることもあります。

大低の家では、家の天井とか軒とかいふ處へ、燕が巢を造りたさうに何度も何度も飛んでくると、板や何かで臺をこしらへてやります。さうすると燕はよろこんで土をくはえてきて盛んに巢を造り初めます。土ばかりかと思ふと決してさうではありません。芝の根のやうな枯れたものをそれにちやんとまじいてゐます。

それは左官屋さんが藁を入れて壁を塗ると少しも變がありません。かうすれば決して崩れてしまはないといふことを燕もよく知つてゐるのであります。

また一度住んだ家は必ず覺えてゐて、二年目からは新たに巢をつくらなくともいゝ譯ですが、その去年造つた巢に今年また住むときにはもう一心に直したり掃除したりするので大變です。念には念を入れてやうやく住んでいゝやうになると今度は野や川の上や山や街の上を飛行機のやうに飛んであるいては盛に働きはじめるのです

燕の翼はとても强いさうです、それはその筈です何百里も何千里も、峽しい山の上や高原の上や、また海の上を旅してあるくのですから。唯夜など海上を飛んでゐるときには、塔臺の灯を慕つてまつしぐらにゆくと塔のやうな建物の先端にうちあたつて落ちてしまうものがあるさうです。それは飛び方がとても早いのですから、あたりかたもひどいことでせう。もつともこれは燕ばたりでなく他のたさんの渡鳥も同じことでもすが、燕はまた海を渡るときには何か藥のやうなものをくはゐてゆくさうです。そして疲れるとそれを濤の上に浮べてそれにとまつてしばらくやすむさうです。兩方にひろげられる小さな翼でもつて、さうして飛んでゆくといふのは考へて見ると不思議なくらゐですね

三

また、五月から六月になりました。五月は一年中で一番さはやかな時季節です春でよみがへつた生物がはじめてしつかりと元氣付くときです。それになんといつても朗な風が吹きますからね。この頃になると、きまつて燕はどこからかやつてくるのですから、燕といふは飛び方がとても早いので鳥は成程元氣がある筈ですね。また六月も新し　崩ひた綠の樹々で新鮮です。それから梅雨とは言ひ雨の日もいゝものです。霧雨小雨に濡れて、すいすい飛ぶ燕のすがたは勇ましいですね野原や街のなかでもどこでもよろしい。風を切るやうにして素早くまたゆるやかに、かけりにかけつてゐる燕のすがたをじつとごらんなさい。さうしてその歯切れのいゝ聲を聞いてゐてごらんなさい

それこそ、きつと頭が清々しますよ。

氣持がはつきりしますよ

元氣いつぱいになりますよ

疲れた頭もよみがへりますよ

でも、燕のことなんぞ、皆さんの方が私などよりよほどくはしく知つてゐることゝ思ひます。

私は今日机に寄りながら窓のむかいにゐる小鳥が雀かと思つてみてゐるうちによくよく氣を付けるとそれは燕でしたから思ひ付くまゝにちよつと書いてみました

砂埃

島田忠夫（一）

○砂埃ちまたちまたにまひあがりとほくの空は紅くくもれり

○たえまなく埃ふきあぐる街中の家なみの上に朝空くもる

○朝なさないそぎてとほる橋もとの白木蓮はいまだもつぼみ

○雨やめどくもりは深き朝空に木蓮のつぼみ並び立つかも

○側溝のみづは流れず色あせし椿の花が落ちたまりをり

○坂沿ひの邸の高き石垣に蔦ははつはつ芽をもちにけり

霧雨のあと

霧雨やんで
樹かげの庭に
雀の聲が
はじけてきける
燕すいすい
すべつて落ちて
宙返る腹が
眞白くみえる
電車の音が
とほ でして〻
街の方から
燕が來るよ
むかうの空き地に
つゞいた小川
ぬれた青葉が
ちらちら光る。

港よ何處に

南星生

涯しなき海原
荒ぶる波浪
幾日か戰ひの歩みを續ける舟人よ
來り憩よ……と
招き輝く港の燈台

×

餓えた眼で巷の灯を眺めながら
かすかに吐息をついてゐる
消ゆ失せた愛と非道なる人々の仕打に
彼はうごめいてゐるのだ
冷なく流星が一つ……

×

烈しい人生の行路に
賴母しく安らけく我を招く
人生の港よ！
あえぎ疲れし魂の其の憩ひの宿
波靜なる憩ひの港よ何處に？

初夏

高橋亘

雨がしと／＼降りました
青葉が一面ぬれました
あちらの森も野山の芽もた
靜かに皆んなぬれました
風が靜かに吹きました
若葉がさを／＼音たてて
庭の柳もなびきます
皆んな靜かになりました

病間隨錄（四）

木村螢秋

○

新聞は休み、郵便は來ず歌も駄目、体も變、嫌だ、何するのも嫌だ

只無情にかうしてゐると丁度五月時分のやうな氣になる——あのうすら冷たい日わたり乍ら、病床に嘆いてゐた詩と同じやうに深みゆく秋——思へば八月、私の人生ば蝕れて來たのだ。うすらつめたい夕風秋たつけむり——雨に色ますもみじも落ちねばならぬ時が來たのだ——いつになつたら私の春はくるんだらう。

○

久しぶりではれた日、炬燵に入りながら青空がうれしい。心戀ほしき心はやはり同じだ。この心のある中私の青空に血があるのか歌があるのかも知れない。だが！生活の中にはやはり物佗しい氣が漲つてゐるのだ

青春！ほのかにただよう青空のもとでの血の躍りが俺にはないのだ。だがそれも仕方のないことだ

○

日が短くなつたなあ——思へば今年も早終るんだ早いなあ、私が病めて既に一年になるのだ、今少しで日の短くなるのも尤もだ思へば去年の今頃『酒は涙か溜息か』を唄つて暮してゐた頃がなつかしい。

あの頃の自分を思ふと遠い遠い過去の夢の國のやうな氣がしてならぬ。かうして私の青春は朽ちてゆくのを思ふと淋しい。やがてあの和やかな春のくる頃、私の身にも和やか青春がくるだらうか

私は何時迄もかうして春はまちつづけてゆかねばならぬ人間なのだらうか。

——七、二二、二五日——

（春をまちつつ

八、二、二〇）

5月17日〔社會の今日〕

△間宮林藏宗谷海峽探檢（文化六）△關所の和尚を禁ず（明治元）△府縣制公府（同二三）△官吏減俸決す（昭和六）△政友會議員總會で鈴木氏を總裁推戴に決定△勞大、社民兩黨の合同問題具体化す△馬占山軍ハルビン對岸でわが守備隊を襲擊す（昭和七）

○

床屋出て輕き面や夏帽子

花女

相組みて土俵の中に立ちすくみ、蛙息つける腹の大きさ

花田比露思

女中入用
勤め先炭鑛社宅
十八歲どめ委細面談
姓名在社

講談 劍火無情（15）

津屋義入作　菅野祐作畫

結城の馬市（五）

『私の身許まで何うして貴君は御存知なんです。若しや貴君も德川の……』

皆まで言はさず、ポンと灰吹をたたいた角市

『コレさ何を言はつしやる梅津殿は德川の旗本、此角市は吹けば飛ぶやうな人の足腰の綱る賤しい渡世、德川にゆかりある者ではない俺はな、上は天子あるを知つて下は將軍あるを知らずだ、玉五郎殿には此の間馬の講釋をしましたが由井正雪の講釋して聞かさうか……お二階の梅津殿も、マア寢ながら聞きなさるが可い

お圓も楷子段を降りて來る、お絹も玉五郎もゐずまひ正した

中二階障子細目に病める猛虎は枕をもたげた

煙管をしやくに取つた角市の眼は恰かも開いて光るかと思はれた

『梅津殿にせよ、玉五郎殿にもせよ、心から正直に德川三百年の太平を御神君以來の君恩とのみ思つてゐなさる所へ、斯う申すと腹も立たれよう、だが能く心を臍下丹田に落着けて俺の言ふ所を聞かつしやれ、江戸城の宏莊と豪奢を見て唯將軍の御威勢とのみ總ての者は威服してゐるが、翻つてあの京都の御所の有樣を見るが可い皇室の式微……申すも畏い事だが、壁落ち雨漏る大宮所、普天の下卒土の濱、何れは王土にあらざるなしといふそれを勝手に諸侯に與へ、己れ亦莫大に之を領し一天萬乘の大君をないがしろにし奉り、何で江戸城は巍々堂々たる宏莊を誇るのか。慶安の四年謀叛人の汚名に依つて刑死したる丸橋忠彌や由井正雪のなした所は決して謀叛や叛逆ではないのだ、德川幕府を倒して政權を皇室に還し奉らんとせしものだ。天下に敵對する者は皆叛、一將軍を斃さんとしたのが何の謀叛と言はれるか、黑船渡來以來德川の政道益々振はず、內は諸藩の內訌あり外は異國の侮りを受くるに至つたので其處で憂國の士勤王の士各地に起り王政復古の急を說くのだ、然るに德川松平の一門は譜代恩顧の四字を笠に錦旗に向つて敵意を挾むとは何たる事であらう。ソコデな玉五郎殿に尋ねするが將軍の恩を思つてお前さんは天子の御恩は思はぬか……何うぢや天子の御恩は將軍の恩より輕いとは……よもや思はれますまいがな、それとも北條高時や、足利尊氏のやうな心でゐられるかな、此角市は盲目ながらも由井正雪になつても弓削の道鏡には成りたくない、何うぢや皆の衆由井正雪の講釋はコレでお仕舞ひぢや』

小三のお絹にも、女將のお圓にも其理が判つた、結城の玉五郎はもう感に耐へて思はず兩手を疊に支へて拜聽してゐた

此時二階の障子が開いた見れば窶れながらも凛として胃し難き風采、寢間着の上に今更ため羽織を着し兩刀を左手に置き襟を正して要之助は言つた

『座は高けれど角市殿、今改めて梅津要之助お厚く御禮を申上げまする、唯今の御議論にて生れて二十七年の無明の夢が今ぞ覺めましてございります、勸王の大義を知らず唯德川神君以來祖先代々蒙りし恩義のみを思ひしは全く此身の過りにござりました。思へば身は旗本の家に生れながら鳥合の徒輩が組織せし天誅組に馳せ加はり、洛中洛外に於て勤王の志士を害せし事數知れず、錦旗に敵對し奉り天罰覿面、重傷を負ひ尚氣附かずして命を惜み斯る處に疵を養ひしは吾ながら卑怯千萬角市殿の御說諭にて改心致したる上は今日まで害したる志士への申譯は先ず此の通り！』

と刀押取り胸寬げんとした時角市は手にせる煙管をめくら打……

不思議や煙管は階上に飛んで要之助の刀取る手に發止と當つた

『ヤ、ツ、角市殿には何故あつて要之助が改悟の死をお止めなさる』

『アツハ、、ハ、未だ思慮が足らぬ、いやさ其爲す所が若い／＼、目が覺めたら何故罪を償ふ心にならんか。腹切り許りが武士道ぢやござらぬぞ、疵が癒えたら今までの同志を說き官軍に歸順さすのが切めてもの罪の償ひ、それこそ亂世を鎮める國への勤め……マア俺ならさうするがなあ何と女將さんやお絹さん、そんなものぢやあるまいか』

刀を捨てた要之助、思はず感涙に咽んで己が過ちの再度なりしを詫入つた。

當撰
五月節句の尚武人形や鯉のぼり
安く良いので
御座敷幟揃
武者人形
金太郎人形
外布幟
鯉幟
スガノヤ提灯店
平四丁目 電九五

五月人形陳列會
◎非常時日本の心意氣！
尚武人形！
節句祝は我國の精華古來の美風
◎品ご値で常に祝品界をリードするフクダヤの名作品
御座敷飾セット 六圓ヨリ百五十圓迄
武者人形 一圓ヨリ三十圓迄
金太郎人形 五十錢ヨリ十八圓迄
五巾外のぼり 十圓ヨリ四十五圓迄
大鯉のぼり 二圓ヨリ四十八圓迄
二丁目の フクダヤ

移轉廣告
謹啓 深綠の候各位益々御清穆の段奉慶賀候。陳者弊店儀豫て新築中の處愈々落成致し候に付本月十四日吉辰をトし移轉仕り候間舊に倍し尚ほ一層御引立を賜り度此段謹告仕り候也 敬白
平町 搔槌小路一番地
(百) 材木店
佐藤福太郎
電話三三五番
各位

夏の學生服
野モ山モ新綠です……
輕快な霜降小倉服が
澤山揃ひました。
どうぞ御用意下さい。
小學生用……¥.40より
同（特製品）¥1.20より
中學生用……¥2.05より
ふかや洋服店 平二 電203

謹啓春綠の候各位益々御盛榮の段奉賀候。
弊店儀今般都合に依り表記の所に移轉仕り候間舊に倍し御愛顧の程御願申上候。
敬白
平町二丁目二一 警察署通り
古山電氣商會

有給社員招聘
年齡 二十五才以上 五十才迄
經驗ノ有無ヲ問ハズ奮闘ノ士ヲ望ム
希望者ハ履歷書添附アリタシ追而面會時日ハ通知ス
有隣生命保險株式會社
平出張所々長
鈴木健司
平町大町八番地

世界類なきに
愛國ミシンの出現
特價一臺金參圓五拾錢
△家庭裁縫の簡易化
一般家庭に於てミシンの便利重寶なる事は皆さんの御承知の通り其の需要を要求して居りましたが從來のミシンは數十圓數百圓の高價の爲一般家庭用として購入出來ませんでしたが今般斯界の大家田島先生の數ケ年の苦心研究によつて斯く大衆向の愛國ミシンが完成され然も突飛的の安價にて從來のミシンと遜色なく便利で各御家庭には必ず常備として一臺なくてはならぬ樣になりました。本機の使用方法は極めて簡單で御子樣方でも三十分位の練習で自由に和洋の御仕立が出來ます。御注文は代引又は前金に願ひます。送料實費）
◎外交員募集
多賀郡石城郡下代理店
平驛前電話三三二番
マルカ
店主加藤正保

耳鼻咽喉科專門 院長醫學士 鈴木正男
齒科口腔外科 日本齒科科長醫學士 鈴木喜政
下谷區入谷町二九一 入谷改正通り東交番前
鈴木醫院

貸切ノ御用命ハ
イツデモ眞先(マツサキ)ニ（松崎(マツサキ)ニ）へ
三九二(ミクニ)タクシー
（デンワ、ミクニ）

沿海を荒し廻つた 密漁船六隻一網打盡
映畫そのまゝ海上の追擊戰
昨日四倉署の殊動

昨十五日四倉海岸を去る數哩の沖合で數隻の密漁船が底曳作業中である事を探知した四倉署では神永部長以下十數名の警官がモーターボートに分乘現場に現はれたので密漁船は右往左往八方に逃散り海上に壯烈な追擊戰を展開したが結局六隻の密漁船全部が取押へられた、取調の結果此の密漁船は

△江名中ノ作稻荷丸（船主作山富太船長）
△同明神丸（船主吉田卓藏 船長吉田義勝）
△同大成丸（船主太滑作、船長山野邊數ゑ）
△天洋丸（船主吉田六左エ門、船長吉田藤四郎）
△小名濱昭三丸（船主比佐正兵衛、船長伊藤文四郎）
△江名東丸（船主吉田喜重 船長南勘三郎）

以上と判明引續取調中だが大掛りな此の密漁は珍らしい

候補者事務長等に 横山署長注意を發す
激戰の平町に違反續出か

餘すところ僅に二週日今や前哨戰の域を脱した平町議戰は文書言論による第二期戰に入つた形だが本日までの正式屆出は十六名辛じて定員の半を超した程度である然も暗躍は刻々激化各方面に亘つて違反者も尠ない模樣なので十六日平署横山署長は候補者並に事務長及運動員の參集を求め運動方法其の他選擧に關する諸般の注意をなした

多田井候補
今日正式屆出

前青年團長多田井笑次郎君は今十六日町議候補者として正式の屆出を了した

貨物漸減の平驛
トラツクの進出と不況から 旣往五ヶ年の發着統計

平町を中心としての貨物自動車は近年著しく增加した結果平驛の貨物扱高も逐次蠶食され旣往五ヶ年の發着噸數から觀ても不況とトラツクの進出を如實に物語つて居る

	發	着
三年	七八三一一噸	二五七二六九
四年	六九一七四	二五三二一三
五年	五九六四五	二三三六九九
六年	五五六四二	一六四五五三
七年	四五二八六	一三五三八四

城山青年團總會

平町城山青年分團臨時總會は昨十五日午後六時から同町聚樂園に開き分團長改選の結果

分團長鈴木熊藏、副團長島磯太、馬上政七の三氏が當選した

好間村長金成氏重任
本日の村會で滿場一致決定

好間村では村長金成淺治氏の任期滿了により今十六日午前十時から村會を開催滿場一致で金成氏の再選重任と決定した

第二校の早起會

平第二校では來る八月の夏休中一日から十日間早起き會を行ひ兒童を午前五時登校させラヂオ体操、作業をなすが左の如き歌を作り極力早起を奬勵せしめる事になつた

1 起きよと人に呼ばれぬ先にとくと起きよはね起きよ、朝風淸く渡れる枝に、鳴く鳥の音も西日や

2 朝日の光さし出ぬ先きに、とくとく起きよはね起きよ、日の出て後も起き出ぬ者は鳥にも劣る人ならむ

吉田候補政見發表

平町城山より町議に立候補した吉田金作氏の政見發表演說會は今十六日午後七時から湯殿山に開く

大浦倉庫で米の共販
相場は前回より低落す

大浦農業倉庫では昨十五日米穀共同販賣を行つたが出荷五等五十七、等外百二十四、同乙六十四合計二百四十四俵、四等玄米八圓二十錢で四倉町渡邊米穀商に落札した、前回より二錢五厘の低落で次第に下落の一路を辿つてゐる

學年研究會

平三小學は同學年研究會は明十七日

一、二、三年第三校に、
四、五、六年は第二校に
高等科は第一校に

夫々開き本年度教育事業の打合せを行ふと

繪畫展賞品授與

去る五日磐中X會主催の郡下小學兒童繪畫展覽會當日X賞を獲得した平第一校及

平第一二校の健康調
虫齒は全生徒の八割强 近視トラホームも可成多數

平第一校では此程全校兒童千五百六十二名に對し身体檢査を行つた結果近視眼百六名、眼疾者はトラホーム患者二十八名其他一名で齲齒保有者は

七年二一四、八年二一八
九年二二二、十年一一七
十一年一五四、十二年一六二、十三年八八、十四年六三、十五年二

計千三百十名で全校生徒の八十三%九を占め、第二校でも近視眼百六名、眼疾者はトラホーム患者五十三名其他十五名で齲齒保有者は

七年二〇七、八年二一一
九年一六四、十年一九七
十一年一六五、十二年一五八、十三年一二七、十四年九四、十五年二

計千三百二十五名でこれ又全校生徒の約八割二分弱に達し學校當局でも齒磨其他の方法で注意督勵をして居るが容易に減少しないと。

金魚
初夏の魅力 相場は例年より一、二割安い

初夏のシンボル、今年もそろ〜金魚の季節になつて來たが値段はと呼賣りの金魚屋さんに聞いて見る—一般家庭間の小和が四錢、小利が十錢から十五錢で飼育向の大龍が組 圓二十錢親大龍が一圓五六十錢から三圓位までである、出目金は普通物が二十錢と云ふ處で一般に昨年に比して一割五分から二割の安値であると

見學の途上から
磐中旅行團

京都と琵琶湖

第五日目
御所—叡山—石山寺—三井寺—國分叢

午前七時四十分宿舍出發朝の京の町を元氣よく通つて廣い公園の樣な廣場に出る、此所が御所で左手に見ゐるは蛤御門である。樹木蒼然として森嚴身にせまる九時十五分ケーブルカーで叡山へ登る、カーは一面霞に包まれた京の街を見下して、一路上へ上へ……此所は四明ヶ嶽、雲の海は足下に廣がりて遙か天に連る。雄大壯嚴眞に天下の絕觀也

再びケーブルカーの人となり坂本に到着して日吉神社へ參る。朱塗の樓門特に目を引く。それより坂本港から琵琶湖へ乘出す。渺々たる水面油を流せる如く廣がりて大海の如し、船の進むにつれ、湖畔のパノラマは千變萬化に變化して行く……フイルムは次第に變化して船はなほも進んで行く……午後二時汽船を下りて、石山寺へ。大石のごろ〜と横はるるのも其の名に相應しい。三時半大津へ到着。旅館へ行つて直ちに三井寺へ、有名な三井寺の晩鐘がしつかりと構へてゐる。皆て宿へ歸つた我にとつて深い印象を與へた今月の旅行果して今夜の夢に如何なる影響を與へるか今日の旅行の樂しさかそれとも故里の夢か夜は次第に更けて行く。

朝顏を播種して 兒童の情操教育
第二校の新しい試み

平第二校では既報の如く兒女に對する情操教育の一助として朝顏の優良種子を購入播種せしめたが更にこれを全校三十訓導に五鉢宛を培養せしめ開花期をみて生徒の作つたものと共に品評會を催す事になつた外此の二十日頃郡山第三小學校から菊苗二十種分讓をうけ先崎草野星の擔任訓導が熱心に培ふ事になつたと

兵事々務檢閲 四倉

四倉警察署管內に於ける兵事々務檢閲は十八日午前九時より同警察署會議室に於て執行、終つて同日午後一時より大野村役場に於て召集事務檢閲あるが檢閲官は福島聯隊區司令部附尾肩少佐なりと

保護者會評議員決定
昨日の總會で改選結果

平三小學校保護者會總會は既報の如く昨十四日午後一時から第三小學校講堂に開催出席二百餘名で七年度決算報告後今年後評議員は左の如く當選決定した

（第一部）馬目誠、佐藤與吉郎、小野園次郎、關原新一郎、根本善吉、柴田德二、酒井濟、永山和平清水廣政、藤田桑助、原精一、中村梅三郎、櫻井淸、小川完一、永野柳造佐々木龍若、千葉彥治、吉田伴吉、鈴木莊夫、坂本隆藏、堀喜一、金子重次、

（第二部）星野市藏、鈴木健太郎、堀江新太郎、長瀨島、髙木喬、永山勇吉上田耕作、正木貞二郎、永島磯惣太、鈴木康、大嶺庫、綠川喜三郎、本村浩、宍戸正勝、麻原吉五郎、吉田喜代治、石川友次郎、關內正一、端山正男、中島十藏、大和田郡司、吉田五平

（第三部）井上貞治郎、諸橋元三郎、佐藤粂吉、猪狩觀德、橘久左衛門、鈴木市三、木村淳、田中繁雄、橘源次郎、鈴木光吉木村寅次郎、多田井笑次郎、草野七五三之助、諸橋正次、根本品藏

蛇類を飼育
平第一校が教材に

平第一校では此程城山より捕獲した

縞蛇二、靑大將二、ナメラ二

計六匹を同校庭一隅に飼育瓜田訓導が主任となつて一は動物愛護に、一は理科教材に資する事となつた

少年窃盜犯送檢

去る十一日四倉署に逮捕された當時住所不定無職茨城縣生れ五十嵐政勝（一九）假名—は嚴重な取調に包み切れず窃盜數件を自白したので今十六日一件書類と共に平檢事局に送致された

。。。。。。平町私立佑賢學舍では開校記念の雄辯大會を今十六日開催の筈であつたが都合で二十二日午後一時から開催する事になつた

大衆化すメロン
泉の年產一萬二千圓 遠く北海道にも移出

石城メロンを代表して東京仙臺乃至は北海道方面まで移出されて居る泉メロンは現在栽培地四百坪の經營者十三名で此の年產額二千餘貫一萬二千餘圓の巨額に達してゐる、目下の出廻りは第二期で相場は五十割から上物七十割見當で昨年と大差ないが美味と高尙な點から盛んに贈答用に歡迎され次第に大衆化しつゝあるので同村でも園藝組合を設立極力品質改良と販路の擴張に努めて居る

詐欺事件公判
判決は二十二日午前九時

双葉郡浪江町大字權現堂字上續町十四前科三犯西牧得藏（四九）が昨年十月五日田村郡御木澤村大字擔椊橋本文次方に到り局から二百圓の爲替を受取つて返濟すると出鱈目を並べて五十圓を騙取し更に去る十月八日双葉郡大野村下野上字廣谷肥料店鈴木ミノに酌婦を周旋すると五十圓後又一名周旋するとて卌圓を騙取した詐欺事件の公判は今十六日午前十時から中島裁判長係り小林檢事立會、眞木辯護士列席開廷、檢事から懲役六ヶ月の求刑あつた後辯護士から被告は全然詐欺の意思なかりしとの理由で執行猶豫の辯護論あり閉廷した、次回は二十二日午前九時から

家出二件
家人から捜査願

玉川村大原箕輪爲藏（三三）は一昨十四日無斷家出し、赤井村赤井佐藤トヨ（四〇）は夫と子供二人を殘し昨十五日平町へ用達しに來た儘戾らぬので何れも今十六日關係者から平署に搜索方を願ひ出た

。。。。平町白銀町救世軍 平小隊の救靈會は一昨十四日より來る二十日迄每夜七時から一般の來會を歡迎すると

。。。。。學校に大鯉を寄附 平第三校では去月初め同校庭にチユーリツプ形の池を作つたが此程片倉製糸工場で大鯉三匹、小二十匹、新川町松崎荒物店で十匹寄贈放魚し生徒を樂しませて居る

醫院を開業
諸橋博士 元新藤本店跡に

平町の生んだ醫學博士諸橋鐵彌氏は鄕士平町に開業の志を有し準備を進めてゐたが愈々明十七日平町新川町元新藤屋旅館本店跡に一大外科醫院を開業する事になつた。氏は同町諸橋國松氏の三男磐中第十七期を首席卒業後二高を經て東京帝大醫學部を卒業名古屋醫大に於いて專心外科を研究昭和五年三十二才の少壯を以つて博士號を獲得した俊秀爾來東京醫療組合病院長として今日に至つた人である

第三校の兒童役員
今日決定發表さる

平第三小學校に於ける今年度校外取締指導員及兒童役員は左の如く決定した

○第一區（鎌田町五色町方面）係長—佐藤進、鈴木勇次郎、金成桂一、入江正義、係長—髙田秋子、岡田幸子、白土貞子、張文子

○第二區（立町正月町方面）係長—木田司、荒井淺次郎、竹村彌寶、橘久 係長—丹野千鶴、齋藤ミツ三森濟子、豊澤ウタ

○三區（稱宜町手搦方面）係長—日野木八郎、藤田一信、中川仁、柳井淸美 係長—加美山みや、下鳥キヨ、植松喜美子、加藤つな

○第四區（五丁目大工町方面）係長—植村力夫、荒四郎、瀧口勝久、笠原正 係長—井上和子、澄川ヶイ子、佐々木ヌメ、小菅正子

○第五區（新川町堤ノ內方面）係長—諸橋富彌、鈴木正雄、松崎惣兵衛、今田實 係長—髙萩秀、鈴木省子、白土ノブ子、三森信子

○第六區（月見町三倉方面）係長—根本一、佐藤常雄 渡邊辰夫、髙木勝平 係長—鈴木ミツ子、根本クラヨ、林淑子、遠藤キミ子

。。。。平第三小學校 の父兄懇話會は來る廿四日午前九時から開き二十三、四日は兒童作品の展覽會を催すと

。。。平第三小。學校の今年度身体檢査は此程終了、体育不足者は男生徒四百十六名中五名女生徒四百五十四名中十二名計十七名で昨年と比し成績良好であつたと

。。。平第二校。 では貧困兒童を調査したが全生徒千三百三十一名中不就學兒四名、欠席五名で出席兒童中就學奬勵の爲め物品を給與してゐるもの五十五名の多きに達してゐる

。。。發火演習 平商業校では十六日から四日間校庭及好間村上野原を中心に輕機關銃操法の發火演習を行ふ

。。ヂフ 江名町中之作佐藤乘吉（八）は昨十五日ヂフテリアと決定した

平町慶弔錄

△出 生
五丁目一二茨城縣眞壁郡鳥羽村築地五六〇飯村千代二女洋子
△婚 姻
揚土一九上坂太刀彌（三元）
錦村大倉大島三二ほう來正子（三三）
△死 亡
長橋町三四關內トク（七三）
南町五〇小名濱町定西一木造キミ（一）
鎌田町五二小林奈子（一）
六間門二〇豊間村豊間渡路二九一中澤志げ（四〇）

廣告

鹽豚（コーンボーク）
肉蒲鉾（ソーセージ）
田町 三二三屋

磐城名物
靈峰羊羹
小川郷驛前 平屋賣店

前田醫院
院長 前田淸美
植田町電話一二四

舊四月二十三日 水曜 新五月十七日
發未 友引 滿 壁宿

諸判定總本部
東京市本郷區湯島四丁目五番地
高島易斷總本部 神誠館

▲一白の人 人に依らず自力にて奮闘するが安全爭論凶▲二黑の人 人事に携りて間違ひと失費を招く事ある日▲三碧の人 他人の世話苦勞多き日知らぬ振りが穩なり▲四綠の人 疎忽失策の生じ易き日商談及工事請負注意▲五黃の人 吉凶の別れ目急進は深く戒めて細心を要す▲六白の人 寸と伸び尺と擴がる向上の日金談緣談亦吉▲七赤の人 地盤固めに精力を集中すべし辯口の爭注意▲八白の人 石を投じて水面に波紋を起すが如し病注意▲九紫の人 始めの順調に引き替へて終りの全からぬ日

木炭代用とこの上のない
經濟の德用 豆炭
壹袋正五貫目入 金八十錢也
御注文次第御屆ケ申シマス……。

南町 磐崎屋酒店（電話六六三番）
一丁目 菅本武夫商店（電話五九六番）
白銀町 水野氷店（電話二九九番）
六町目 矢吹石炭商店
平驛前 阿部石炭商店（電話三七番）

◎特約店募集致シマス。

御會葬御禮

四月十六日
湯本町
男 柏木諄哲
外親戚一同

父康儀豫テ病氣療養中ノ處養生不相叶十五日午後〇時五十五分死去仕候ニ付此段生前ノ辱知諸彥ニ謹告候也

追テ送葬ノ儀ハ十八日午後二時出棺松堂院ニ於テ佛葬相營ミ可申候

昭和八年五月十六日
平町字田町一番地
加藤正保
加藤丈夫
親戚總代 眞木正之